

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29157 プログラム名 実験で経済学を学ぼう



開催日:	2017年8月5日(土) 2017年8月6日(日)
実施機関:	金沢大学
(実施場所)	金沢大学角間キャンパス
実施代表者:	藤澤美恵子
(所属・職名)	(人間社会研究域・教授)
受講生:	中学生1名・高校生43名
関連URL:	http://www.kanazawa-u.ac.jp/info/detail.php?e=566

【実施内容】

本プログラムでは、3つの実験と2つの講義を実施した。以下に、プログラム遂行にかかわる、工夫した点・当日のスケジュール・実施時の様子を記述する。加えて、実施にあたっての手続き等について、事務局との協力体制・広報活動・安全配慮の順で記述する。最後に、今後の発展性と課題をまとめる。

工夫した点

大学でおこなわれている実験経済学や行動経済学の講義の内容を、わかりやすいようにプログラム構成した。具体的には、実験で体感してから、講義をする順序を取った。講義については、高校生になじみのある平易な言葉で話すように心がけた。

また、8月6日(日)については、参加者が少ないことから大学生に実験協力者(4人)として参加してもらい、寡占市場にならないように交渉実験をおこなって、市場均衡を体験させるように工夫した。同時に、両日ともにサポートの大学生(4人)を配置し、実験をスムーズに実施できるように配慮した。

当日のスケジュール

5日と6日の両日ともに、以下のスケジュールで実施した。当日は、若干時間の前後もあったが、最終的には時間内で終了しており、時間管理は問題なくおこなわれた。

- 10:15-10:45 受付(集合場所:人間社会2号館玄関前)
- 10:45-11:00 開講式(あいさつ、予定の確認)
- 11:00-11:30 実験①「オーラルピットマーケット実験」
- 11:30-11:45 休憩
- 11:45-12:15 講義①「市場の話」(講師:小田宗兵衛)
- 12:15-13:00 昼食
- 13:00-13:10 科研費の紹介
- 13:10-13:20 グループ分け
- 13:20-13:45 実験②「囚人のジレンマ実験」
- 13:45-14:00 休憩
- 14:00-14:25 講義②「ゲーム理論」「公共財」(講師:林 良平)
- 14:25-14:45 実験③「共有地の悲劇実験」
- 14:45-15:00 クッキータイム&ディスカッション
- 15:00-15:30 グループ発表
- 15:30-16:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)・終了解散

実施時の様子

実践時の様子については、写真を参考に以下に記述する。



売主は黄色の付箋を胸につけ、買主は水色の付箋を胸につけ、売主が売値を口頭で伝える。それを聞いて値交渉したり、売主を選別したり、成約すると成約価格を白板に書いて申告する。

市場では、必ずしも成約に至らない場合もあることも経験する。



共有地の悲劇実験は、スマホを使用しておこなった。誰が隣人かわからない中、公共財の消費について考える。自分の利得と公共の利益、どちらが優先されるのか？

人間は理に敏いのか、それとも思いやりがあるのか？スマホのゲームに参加しながら、人間の合理性を体感する。

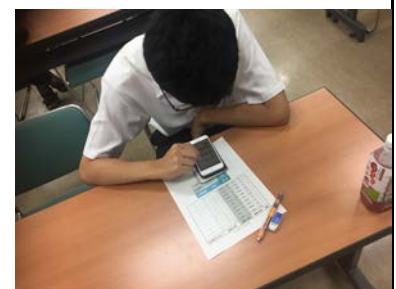


オーラルピットマーケット実験前に実験のルールを説明している。この実験は、タケノコ市場を想定し、タケノコを掘って市場に持参した売主と、そのタケノコをお惣菜に加工して売ろうと考える買主の料理店の店主との交渉によりおこなわれる。



囚人のジレンマを体験する。高校生にある国の総理になってもらい、平和を維持するか軍備拡大をおこなうかを選択させる。2人1組で隣国と同時交渉をするゲームである。

お互い平和を維持する戦略をとると利得は大きくなる。自分の利得表を作成しながら、お互いの交渉に臨む様子。



最後にグループディスカッションをおこない、各グループで代表者もしくは全員で発表をした。クッキータイムを兼ねたディスカッションは、和気あいあいとおこなわれた。

発表では鋭い意見が出て、未来の博士号を取得する未来博士の片鱗を見せていた。

事務局との協力体制

金沢大学においては、すでに多くのひらめき☆ときめきサイエンスを開催してきた実績があり、経理担当や広報担当が分業して、これにあたる体制が構築されている。これらの体制を利用して、スムーズに計画実施をおこなうことができた。

広報活動

日本学術振興会(学振)のホームページ(HP)を利用した申し込みのフォームを利用した。また、大学のHPにおいてイベント情報として画面を作成して開示した。同時に、県の教育委員会に依頼して、県内の高等学校にポスターとプログラムの内容概要書・申込用紙を郵送した。石川県に接している富山県の複数の高校は距離的にも近いことから、ここにも申込用紙等を郵送した。さらに、地元の本屋にもポスターの掲示をお願いして、広く募集を募った。

特に、金沢市内の高校に対しては直接訪問してお願いしたことが奏功し、訪問校からは多くの参加者を得ることができた。

以下は、HPで情報開示したURLである。

・学振

<https://cp11.smp.ne.jp/gakujutu/seminar>

・金沢大学

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/info/detail.php?e=566>

安全配慮

理工学系の実験とは異なり、危険な実験はおこなわないため、特別な安全配慮はおこなわなかった。しかしながら、県外から参加する高校生もいたことから、自宅から会場の大学まで安全に移動できるようにアクセスマップなどを事前にリマインドメールに添付して配布した。また、開催時に交渉実験をおこなうため、机の間隔や配列に関しては考慮した。

なお、万が一のために、参加者全員の保険の加入をおこなった。

今後の発展性と課題

本プログラムは、初めての試みで、実験で寡占状態にならないように50名の募集をかけたが、この人数には到達しなかった。また、土曜日と日曜日の集客の差が発生した。土曜日に設定して応募する方法が、効率的であるという知見を得た。同時に、30人以上の参加者を確保すれば、危惧していた寡占市場になることなく交渉実験がおこなえることを確認することができた。

これらは、今後の企画における募集人数や日程の設定について参考にする予定である。

【実施分担者】

- ・汲田晴子 人間社会系事務部総務課
- ・上里由紀子 男女共同参画キャリアデザインラボラトリー

【実施協力者】 12 名

【事務担当者】

寺口浩史 研究推進部研究推進課学術調整係・係長